

一般社団法人 日本原子力学会
第 74 回 標準委員会 (SC) 議事録

- 1 日時 2018 年 09 月 12 日 (水) 13:30~18:55
- 2 場所 5 東洋海事ビル D 会議室
- 3 出席者 (敬称略)
 - (出席委員) 関村委員長, 越塚副委員長, 伊藤幹事, 上田, 河井, 木倉, 酒井, 清水, 竹山, 多田, 中井, 中村, 成宮, 萩原, 松井, 三宅, 山本, 吉原, 渡邊 (19 名)
 - (欠席委員) 井口 (1 名)
 - (代理委員) 富塚千昭(富士電機/尾崎代理), 鈴木嘉章(システム安全専門部会幹事/岡本代理), 加藤和之(原子燃料サイクル専門部会幹事/新堀代理)(3 名)
 - (フェロー委員) 宮野 (1 名)
 - (欠席フェロー委員) 成合 (1 名)
 - (委員候補) 牛尾直史 (原子燃料工業), 谷口敦 (東京電力ホールディングス), 中牟田康 (九州電力) (3 名)
 - (欠席委員候補): 大柿 一史 (日本原燃) (1 名)
 - (欠席常時参加者) 鈴木 (1 名)
 - (オブザーバ) 波木井順一 (東京電力ホールディングス), 荘田泰彦 (三菱重工業) (2 名)
 - (説明者) 【水化学管理分科会】北島幹事, 梅原常時参加者, 【PLM 分科会】中川幹事, 【PRA 品質確保分科会】野村幹事, 浦野委員, 【放射能評価分科会】北島幹事, 本山常時参加者, 【統合的安全性向上分科会】成宮主査, 倉本幹事, 村上委員, 【レベル 3 PRA 分科会】成宮幹事, 野村常時参加者, 【統計的安全評価手法標準分科会】工藤副主査, 末廣幹事, 【リスク専門部会】桐本委員, 【JIWG】成宮委員, 【原子力安全部会】成宮幹事, 【標準活動基本戦略タスク】伊藤主査, 河井幹事, 成宮幹事, 鈴木委員, 田老事務局 (延べ 22 名)
 - (事務局) 中越, 田老, 谷井, 皆月 (4 名)
- 4 配布資料:
 - SC74-0 第 74 回標準委員会議事次第 (案)
 - SC74-1 第 73 回標準委員会議事録 (案)
 - SC74-2-1 人事について (標準委員会)
 - SC74-2-2 標準活動基本戦略タスク人事について
 - SC74-2-3 人事について (専門部会)
 - SC74-3-1-1 “沸騰水型原子炉の水化学分析方法—よう素 131” の標準原案に関する公衆審査結果について
 - SC74-3-1-2 “沸騰水型原子炉の水化学分析方法—コバルト 60 イオン” の標準原案に関する公衆審査結果について

- SC74-3-1-3 “沸騰水型原子炉の水化学分析方法－金属不純物” の標準原案に関する公衆審査結果について
- SC74-3-2-1 “沸騰水型原子炉の水化学分析標準－コバルト 60 イオン” 標準原案に関する公衆審査で受け付けた意見への回答案について
- SC74-3-2-2 “沸騰水型原子炉の水化学分析標準－金属不純物” 標準原案に関する公衆審査で受け付けた意見への回答案について
- SC74-3-3-1 “沸騰水型原子炉の水化学分析標準－放射性よう素” 改定前後比較表
- SC74-3-3-2 “沸騰水型原子炉の水化学分析標準－コバルト 60 イオン” 改定前後比較表
- SC74-3-3-3 “沸騰水型原子炉の水化学分析標準－金属不純物” 改定前後比較表
- SC74-4-1 “原子力施設のリスク評価標準で共通に使用される用語の定義：201X” 標準改定原案で受付けた意見への対応案で公衆審査へ移行することについてのメール審議結果について
- SC74-4-2 “原子力施設のリスク評価標準で共通に使用される用語の定義：201X” 標準改定原案で受付けた意見への対応案で公衆審査へ移行することについてのメール審議で受け付けた意見への回答案について
- SC74-5-1 “高経年化対策実施基準 201X（追補 3）” 案に関する標準委員会決議投票結果について
- SC74-5-2 “高経年化対策実施基準 201X（追補 3）” 案に関する標準委員会決議投票で受け付けた意見への回答案について
- SC74-6-1 【本報告】（概要）“加圧水型原子炉二次系の水化学管理指針：201X” 策定について
- SC74-6-2 “加圧水型原子炉二次系の水化学管理指針：201X”（案）
- SC74-7 “原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X” 標準原案について
- SC74-8 “原子力発電所の定期安全レビュー実施基準：2009” 標準改定・廃止の要否検討及び誤記チェック結果について
- SC74-9-1 【本報告】“ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順” の改定について
- SC74-9-2 【本報告】（概要）“ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順” 改定(案)
- SC74-9-3 “ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順”（案）
- SC74-10 “原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3 PRA 編）：201X” 標準の修正について
- SC74-13-1 “統計的安全評価の実施基準：201X” 標準改定原案に関する意見募集結果について
- SC74-13-2 “統計的安全評価の実施基準：201X” 標準改定原案に関する意見募集で受け付けた意見への回答案について
- SC74-13-3 “統計的安全評価の実施基準：201x” 改定原案
- SC74-15-1 JIWG メンバー名簿
- SC74-15-2 JIWG 憲章
- SC74-15-3 Topics of JIWG

- SC74-15-4 “原子力施設のリスク評価に共通に使用する用語の定義：201X”の最新状況
- SC74-15-5 “ 内の事象レベル1 PRA 編：201X”の定例改定の状況
- SC74-16-1-1 標準活動基本戦略タスク 2018 年度第 2 回議事録
- SC74-16-1-2 2018年度活動報告および2019年度活動計画（2018上期版）
- SC74-16-1-3 標準委員会活動全体計画(年間工程表)（2018年・2019年版）
- SC74-16-2 標準委員会の標準策定5カ年計画の更新について
- SC74-16-3-1 新知見の収集・評価WGのH30年度の重点実施事項及び活動計画
(参考資料：新知見の収集・評価WGの運営要領の補足説明)
- SC74-16-3-2 周知文「標準策定活動に関する意見，要望の募集について」(案)
- SC74-16-3-3 周知文「学会標準の制定／改定に係るアンケート調査について」(案)
- SC74-16-3-4 同上 添付 学会員へのアンケート調査の対象標準
- SC74-16-3-5 学会内の部会・連絡会との意見交換会 運営要領 (案)
- SC74-16-3-6 新知見WGの第1回，第2回の議事録
- SC74-16-4 標準委員会規程類の制定の周知
- SC74-16-5 標準誤記載対応ガイドラインー誤記分類の再確認
- SC74-16-6-0 規程類の整備
- SC74-16-6-1 標準委員会規程（理事との兼務不可）
- SC74-16-6-2 標準委員会運営規約（公平公正公開＋付録の誤記訂正）
- SC74-16-6-3 専門部会運営細則（旧 専門部会運営通則）の新旧比較について
- SC74-16-7 標準作成ガイドラインの新旧比較について
- SC74-16-8 標準活動運営委員会平成30年度第1回議事録
- SC74-16-9 学協会協議会及び基本戦略タスクでの学協会規格整備計画の検討状況
(その27)
- SC74-16-10 標準委員会の出席状況及び投票状況
- SC74-17 専門部会活動状況報告
- SC74-18 標準委員会の活動状況
- SC74-19 (社)日本原子力学会 原子力安全部会フォローアップセミナー「外的事象に対する包括的な安全確保の体系の現状と課題」開催計画

参考資料

- SC74-参考 1 標準委員会委員名簿
- SC74-参考 2 標準委員会開催スケジュールについて (案)

5 議事内容

事務局から開始の時点で委員（フェロー委員含め）25名中，23名の出席があり，委員成立に必要な委員数（18名以上）を満足している旨，報告があった。

(1) 前回議事録の確認 (SC74-1)

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について (SC74-2-1, SC74-2-2, SC74-2-3)

配付資料の SC74-2-1, SC74-2-2, SC74-2-3 に基づいて，標準委員会，標準活動基本戦略タスク及び専門部会の人事について以下の提案及び報告があった。

a. 標準委員会人事

- ① 理事会による委員選任承認の確認
木倉 宏成(東京工業大学)
三宅 修平(MHI ニュークリアシステムズ・ソリューションエンジニアリング)
山本 章夫(リスク専門部会長/名古屋大学)
- ② 理事会による委員再任承認の確認
青柳 春樹(元日本原燃)
伊藤 裕之(原子力安全推進協会)
成宮 祥介(原子力安全推進協会)
西野 祐治(原子燃料工業)
吉原 健介(関西電力)
- ③ 委員退任の確認
上田 親彦(九州電力)
青柳 春樹(元日本原燃)
西野 祐治(原子燃料工業)
姉川 尚史(東京電力ホールディングス)
寺井 隆幸(東京大学)
- ④ 委員の選任決議
牛尾 直史(原子燃料工業)
大柿 一史(日本原燃)
谷口 敦(東京電力ホールディングス)
中牟田 康(九州電力)
- ⑤ 委員再任の決議
河井忠比古(原子力安全推進協会)
関村 直人(東京大学)

理事会による委員再任の承認等が確認され、委員の選任等が決議された。

b. 標準活動基本戦略タスク人事

- ① タスク委員退任の確認
山本 章夫(リスク専門部会部会長)
木倉 宏成(標準委員会委員)
- ② タスク新委員の確認
高橋 邦明(原子燃料サイクル専門部会 副部会長)
高田 孝(リスク専門部会 副部会長)
桐本 順広(リスク専門部会 幹事)
- ③ タスク幹事会新委員の確認
桐本 順広(リスク専門部会 幹事)
タスク委員退任等が確認された。

c. リスク専門部会

- ① 委員退任確認の確認
成宮 祥介(原子力安全推進協会)
山口 彰(東京大学)
鈴木 雅克(日本原子力発電)

- ② 委員選任決議の承認(決議)
山中 勝 (日本原子力発電)
 - ③ 委員再任決議の承認(決議)
岡本 孝司 (東京大学)
桐本 順広 (電力中央研究所)
倉本 孝弘 (原子力エンジニアリング)
栗坂 健一 (日本原子力研究開発機構)
曾根田 秀夫 (日立 GE ニュークリア・エナジー)
吉田 一雄 (日本原子力研究開発機構)
委員退任確認の確認がされ、委員選任決議の承認等が決議された。
 - ④ 常時参加者登録承認決議の確認
小城 烈 (原子力規制庁)
成宮 祥介 (原子力安全推進協会)
- d. システム安全専門部会
- ① 委員退任確認の確認
大竹 幸彦 (三菱重工業)
真寄 康行 (関西電力)
勝村 庸介 (日本アイソトープ協会)
 - ② 委員選任決議の承認(決議)
井村 諭 (三菱重工業)
荻田 利幸 (関西電力)
 - ③ 委員再任決議の承認(決議)
阿部 弘亨 (東京大学)
鈴木 嘉章 (原子力安全推進協会)
岡本 孝司 (東京大学)
 - ④ 委員 (分科会代表者) の選任決議の承認 (決議)
【水化学管理分科会】
室屋 裕佐 (大阪大学)
委員退任確認が確認され、委員選任決議の承認等が決議された。
- e. 基盤応用・廃炉技術専門部会
- ① 委員退任確認の確認
小野 文彦 (東京電力ホールディングス)
 - ② 委員選任決議の承認(決議)
増田 良一 (東京電力ホールディングス)
 - ③ 委員再任決議の承認(決議)
萩原 剛 (東芝エネルギーシステムズ)
堺 公明 (東海大学)
岡本 孝司 (東京大学)
吉田 啓之 (日本原子力研究開発機構)
日比 宏基 (三菱 FBR システムズ)
松本 昌昭 (三菱総合研究所)
坂本 幸夫 (アトックス)

宮坂 靖彦（原子力研究バックエンド推進センター）

委員退任確認が確認され、委員選任決議の承認等が決議された。

f. 原子燃料サイクル専門部会

① 委員退任確認の確認

上田 真三（三菱マテリアル）

熊崎 隆啓（中部電力）

② 委員選任決議の承認(決議)

久野 悟（中部電力）

高橋 秀治（東京工業大学）

中澤 俊之（三菱マテリアル）

③委員再任決議の承認(決議)

柳原 敏（福井大学）

委員退任確認の確認が確認され、委員選任決議の承認等が決議された。

g. 標準委員会委員長の互選

関村委員長の任期が 2018 年 9 月 25 日で 2 年の満期となるため、運営規約第 5 条

1. 委員長の（3）“委員長の任期は 2 年とし、再任は 4 回までとする。”に基づき、互選による委員長の選出投票を行った。投票の結果、出席委員総数 25 名の過半数である 13 名以上の得票である 21 票を得、関村現委員長が選任された。副委員長は越塚委員及び幹事は伊藤委員が指名された。

投票総数	25 票
------	------

関村	24 票
----	------

越塚	1 票
----	-----

（3）【報告・審議】“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－よう素131”，“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－コバルト60イオン”及び“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－金属不純物”標準原案に関する公衆審査結果及び受付けた意見への回答案について（SC74-3-1-1, SC74-3-1-2, SC74-3-1-3, SC74-3-2-1, SC74-3-2-2, SC74-3-3-1, SC74-3-3-2, SC74-3-3-3）

事務局から SC74-3-1-1, SC74-3-1-2, SC74-3-1-3 に基づいて、沸騰水型原子炉の水化学分析方法－よう素 131”標準原案に関する公衆審査では意見を受付けなかったが、“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－コバルト 60 イオン”，及び“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－金属不純物”標準原案に関する公衆審査で意見を受付けたことが報告された。引続いて、水化学管理分科会の北島幹事、梅原常時参加者から SC74-3-2-1, SC74-3-2-2, SC74-3-3-1, SC74-3-3-2, SC74-3-3-3 に基づいて、受付けた意見への回答案及び回答案を反映したこれら 3 標準原案について報告があり、審議した結果、当該回答案に本日のコメントを訂正した内容で意見提出者に回答すること及びこれら 3 標準を制定し発行することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

C：金属不純物の 7.4 使用済燃料プール水の回答で，“使用済燃料のみならず再装荷する燃料も”という表現があるが、法令上“再装荷する燃料”も使用済燃料に含まれるので、この回答では不適切ではないか。

A：“及び新燃料”を追加する。

C：コバルト 60 イオンの 3.2 ろ過法のコメント内容のうち，“懸濁物を”の追記への対応が記載されていない。

A：ろ過法の定義をしている箇所であるため，“懸濁物を”の追記は不要と考える。

C：コバルト 60 イオンの序文で，“被ばく線量に大きく寄与する”という追記を行ったが，よう素 131 及び金属不純物では，それぞれ追記する必要はないのか。

A：解説 2 制定の経緯において，よう素 131，コバルト 60 イオン，金属不純物の分析の目的，位置付けについて記載している。

(4)【報告・審議】“原子力施設のリスク評価標準で共通に使用される用語の定義:201X”標準改定原案で受付けた意見への対応案で公衆審査へ移行することについてのメール審議結果及び受付けた意見への回答案について (SC74-4-1, SC74-4-2)

事務局からSC74-4-1に基づいて，“原子力施設のリスク評価標準で共通に使用される用語の定義：201X”標準改定原案で受付けた意見への対応案で公衆審査へ移行することについてのメール審議で可決されたことが報告された。引続いて，リスク専門部会の桐本委員，PRA品質確保分科会の野村幹事，浦野委員からSC74-4-2に基づいて，受付けた意見への回答案について報告があり，当該回答案に本日のコメントを反映した内容で公衆審査へ移行することが決議された。

Q:まえがきの第一段落に“リスク専門部会にて制定する標準に共通”という表現が残っているので修正すること。

A:拝承。第 5 段落の表現と整合させるかたちで修正する。

C:まえがきの英文についても修正が必要である。適切に修正し，越塚副委員長の確認を得た上で公衆審査に移行すること。

A:拝承。

(5)【報告・審議】“高経年化対策実施基準201X（追補3）”案に関する標準委員会決議投票結果及び受付けた意見への回答案について (SC74-5-1, SC74-5-2)

事務局からSC74-5-1に基づいて，“高経年化対策実施基準201X（追補3）”案に関する標準委員会決議投票で可決されたことが報告された。引続いて，PLM分科会の中川幹事と伊藤常時参加者からSC74-5-2に基づいて，受付けた意見への回答案について報告があり，当該回答案を反映の上，公衆審査に移行することが決議された。

(6)【本報告・審議】“加圧水型原子炉二次系の水化学管理指針:201X”標準原案について (SC74-6-1, SC74-6-2)

水化学管理分科会の北島幹事，梅原常時参加者からSC74-6-1，SC74-6-2に基づいて，“加圧水型原子炉二次系の水化学管理指針:201X”標準原案について本報告があり，当該標準原案に関する決議投票に移行することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

C：FAC（流れ加速型腐食）の取り扱いについては，労働安全の観点から非常に重要との認識。本指針上の取り扱い，機械学会減肉管理規格との関連はどうなっているのか。

A：指針 94 頁に記載しており，水化学分科会委員の機械学会減肉管理規格メンバーに本指針の内容を適宜取り入れていただくことで働きかけていくこととしている。

C：原子力学会としてどのように対応していくのか明確化していくことが重要。

A：指針への記載内容について検討する。

C：本文中に管理値の設定根拠を明記すべきではないか。

A：附属書Eに数値の設定根拠を示し、更に解説で補足説明をしている。

C：海外標準との比較を解説等で記載すべき。

A：本日のPPT説明資料で参考としてEPRIとの比較を記載しているが、管理項目、数値はほぼ同等。解説での記載については検討する。

(7)【本報告・審議】“原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X” 標準原案について (SC74-7)

統合的安全性向上分科会の成宮主査、倉本幹事、村上委員からSC74-7に基づいて、“原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X” 標準原案について本報告があり、当該標準原案に本日のコメントを反映した内容で決議投票に移行することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

Q：7.2.4節のIRIDMプロセスの範囲及び内容の検討の箇所、h)項からk)項の規定の順番、関係性が不明瞭だと感じる。また後段ではこのh)項に対応する実施要件が示されていない様に思う。R.G.1.174に該当するようなケース、ROPでのケースといったものがh)項からk)項のどれに当てはまるのかが見えるようであれば望ましい。

A：実施基準として基本要件を示すものであり、御指摘のような具体的なケースそれぞれがどの実施要件にあてはまるかを示すものではない。今後の技術レポートにおいて、示すようにしたいと考えている。h)項からk)項の規定の順番、関係性については、h)項でフルスコープのIRIDMプロセスを行う条件を示し、i)、j)項においてプロセスを部分的に省略できる場合分けを示しており、要件として問題ないものである。

Q：SC-74-7(2)のコメントNo.1への対応として、解説5においてIRIDMとRIDMの関係性につき記載されたのは納得したが、今議論のあった、フルスコープのIRIDMプロセスであるか、部分的にプロセスを省略できるかという違いが、IRIDMとRIDMに当たるという事ではないという理解で良いか。

A：その通り。

Q：解説5においても、IRIDMはRIDMと基本的に同意であると説明がある。

A：基本的に同意であると捉えた上で、キーエレメントの明瞭な定義を行い、キーエレメントから得られるリスク情報を統合的に分析するというステップを示す意味で、Integratedということを明確にしたのがIRIDMということだと説明している。

Q：事業者は、この標準を新検査制度で使っていくのか、安全性向上評価制度で使っていくことになるのか。

A：どちらにおいても、使っていくことになるものと考えている。

Q：安全性向上評価制度は、IRIDMとはまた別のものであるということか。そのように使われることは、今後検討すると言われている技術レポートの中には出てくるのか。

A：それぞれのアプリケーションにおいて、この標準をどのように適用していくのかについては、技術レポートにおいて示したいと考えている。

C:事業者においては、すでにリスク情報を活用した意思決定を行っているという状況にもあり、その様に説明もされている。そういった状況とのつながりや関係が見えない。

A:そういう継続性は重要であると考えており、現状活動の延長に標準があるという様につなげていくようにもしたい。現在の標準ではその記載は十分ではなく、本日頂いた御意見、コメントをふまえて、今後解説等での記載を追加するように検討する。

(8)【報告・審議】“原子力発電所の定期安全レビュー実施基準：2009”標準改定・廃止の可否検討及び誤記チェック結果について (SC74-8)

統合的安全性向上分科会の成宮主査、倉本幹事からSC74-8に基づいて、“原子力発電所の定期安全レビュー実施基準：2009”標準改定・廃止の可否検討及び誤記チェック結果について報告があり、もう一度分科会で再検討することとなった。

主な質疑等は以下のとおり。

C:誤記チェックの結果は理解できたが、改定をしないという根拠が誤記チェックの延長上でしかなく、たとえばSSG-25の状況の反映、安全文化に関するWAN0レポートの取り込み、安全性向上評価制度の意味付け、新検査制度への取り組み等が一切無く、最新状況の反映という事が決定的に不足している。GSR Part2の発行、中国においてはPSRをしっかり作り上げている等、見るべきもの、考えるべきものはたくさんあると思う。

A:前回の標準委員会での報告において御承認を得た通り、最新知見の反映についてはPSR+指針が引き継ぐものとし、PSR2009標準において記載している情報で、最新化するべきものは更新するという方針で検討を行った。

A:長期停止プラントにおいては従来のPSRを継続しており、それに対するPSR2009標準の措置として検討を行ったものであるが、前回の標準委員会でも長期停止プラントにおける安全性向上の取り組みは大きな課題であり、今後も検討を行っていくべきという議論はしていた。

C:そこまで整理されているという事であれば、PSR+指針があったとしても、SSG-25の事、安全性向上評価制度と事業者が行うPSR制度の関係等については、情報の更新においてふれなくてはならない。改定、情報の更新をどういう方針で行うのかという事であり、現状の方針では不十分。

C:情報の更新記載方法に関するコメントであるが、安全文化に関する表C.1において、海外情報の記載については、その意図を正確に伝えるためにも、日本語訳のみではなく、原文表現も併記する様にした方が良いものと思う。

C:誤記チェックは認めるが、差し替え版は認められない。もう一度専門部会で検討してほしい。PSR2009標準は使用されているものであり、だからこそきっちりとした情報の更新が必要である。安全性向上評価制度の欠点というものが表出している点である。見えているものがあるのに、なぜ取り入れないのかという点で、標準委員会としては承諾できない。

C:既設炉の旧来PSRも、PSR+指針を使っても出来る。学会としては、PSR2009を廃止して、PSR+指針を使用するという事を提案していく方向性もあるのではと思う。

C：そういう方向性もあると思うが、改定・差し替えとして、中途半端なものを出すわけにはいかない。この改定で良いという承諾はできない。標準策定の5カ年計画の中でも行われることだが、改定要否の議論もしっかりやってほしい。

A：御意見をふまえて、分科会に持ち帰り検討を行って、再度報告を行う様にする。

(9)【本報告・審議】“ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順”標準改定原案について(SC74-9-1, SC74-9-2, SC74-9-3)

LLW放射能評価分科会の北島幹事, 本山常時参加者からSC74-9-1, SC74-9-2, SC74-9-3に基づいて, “ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順”標準改定原案について本報告があり, 当該標準原案に関する決議投票に移行することが決議された。

(10)【報告・審議】“原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準(レベル3 PRA編): 201X”標準の修正について(SC74-10)

レベル3 PRA分科会の成宮幹事, 野村常時参加者からSC74-10に基づいて, “原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準(レベル3 PRA編): 201X”標準の修正について報告があり, 提案のあった修正を反映した内容で発刊することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

Q:活用上問題のない誤記か。

A:誤記は附属書(参考)又は解説内において見受けられ、いずれも事例紹介など活用上問題のない誤記である。

(11)【報告】“統計的安全評価の実施基準: 201X”標準改定原案に関する意見募集結果及び受付けた意見への回答案について(SC74-13-1, SC74-13-2, SC74-13-3)

事務局からSC74-11-1に基づいて, “統計的安全評価の実施基準: 201X”標準改定原案に関する標準委員会意見募集結果が報告された。引き続き, 統計的安全評価手法標準分科会の工藤副主査, 末廣幹事からSC74-13-2, SC74-13-3に基づいて, 受付けた意見への回答案及び回答案を反映した標準改定原案について報告があった。

“この標準の改定作業は最終段階に来ていると理解した。次回の標準委員会で本報告できるよう作業を進めること”とコメントがあった。

(12)【報告】JIWGの議事とJCNRMへの説明資料案の報告(SC74-15-1, SC74-15-2, SC74-15-3, SC74-15-4, SC74-15-5)

JIWGの成宮委員からSC74-15-1, SC74-15-2, SC74-15-3, SC74-15-4, SC74-15-5に基づいて, JIWGの議事とJCNRMへの説明資料案について報告があった。

(13)【報告】原子力安全部会フォローアップセミナーの開催について(SC74-19)

原子力安全部会の成宮幹事からSC74-19に基づいて, 原子力安全部会フォローアップセミナーの開催について報告があった。

(14) 標準活動基本戦略タスク関係

(14-1)【報告】標準活動基本戦略タスクの報告と論点(SC74-16-1-1,

SC74-16-1-2 , SC74-16-1-3)

標準活動基本戦略タスクの伊藤主査から SC74-16-1-1, SC74-16-1-2 , SC74-16-1-3 に基づいて、標準活動基本戦略タスクの 2018 年度第 2 回議事録等について報告があった。

“表彰の導入について検討を進めてほしい”とコメントがあった。

(14-2) 【報告】標準策定 5 カ年計画の更新依頼の発出 (SC74-16-2)

(14-3) 【報告・審議 (意見募集)】新知見の収集・評価 WG のアンケート実施要領ほか (SC74-16-3-1, SC74-16-3-2 , SC74-16-3-3, SC74-16-3-4 , SC74-16-3-5)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC74-16-2 に基づいて標準策定 5 カ年計画の更新依頼の発出の報告があり了承された。また、SC74-16-3-1, SC74-16-3-2 , SC74-16-3-3, SC74-16-3-4 , SC74-16-3-5 に基づいて“新知見の収集・評価 WG のアンケート実施要領ほか”についての報告があり、“新知見の収集・評価 WG のアンケート実施要領ほか”について 2 週間の意見募集を行うこととなった。

(14-4) 【報告】規程類の制定の周知 (SC74-16-4)

(14-5) 【報告】標準誤記載対応ガイドラインの誤記分類の再確認 (SC74-16-5)

(14-6) 【報告・審議 (意見募集)】標準委員会規程の改定、標準委員会運営規約の改定、専門部会運営細則の改定 (SC74-16-6-0, SC74-16-6-1, SC74-16-6-2, SC74-16-6-3)

標準活動基本戦略タスクの鈴木委員から SC74-16-4, SC74-16-5 に基づいて、規程類の制定を専門部会、分科会に周知したことの報告及び標準誤記載対応ガイドラインの誤記分類の再確認が報告された。また SC74-16-6-0, SC74-16-6-1, SC74-16-6-2, SC74-16-6-3 に基づいて、標準委員会規程の改定、標準委員会運営規約の改定及び専門部会運営細則の改定について報告があった。学会理事との重複不可に関し、主語は委員とすべきとの指摘があり、これを反映した上で標準委員会規程の改定、標準委員会運営規約の改定及び専門部会運営細則の改定について意見募集を行うこととなった。

(14-7) 【報告・審議 (意見募集)】標準作成ガイドラインの改定 (SC74-16-7)

標準活動基本戦略タスクの鈴木委員から SC74-16-7 に基づいて、標準作成ガイドラインの改定について報告があった。用語辞典制定の過程で標準作成ガイドラインに反映した方がよい項目について用語辞典 WG から提案されたもの、免責事項等の定型文の見直しなどを改定する。標準作成ガイドラインの改定について意見募集を行うこととなった。

(14-8) 【報告】標準活動運営委員会の議事概要について (SC74-16-8)

標準活動基本戦略タスクの河井委員から SC74-16-8 に基づいて、標準活動運営委員会の議事概要について報告があり了承された。

(14-9) 【報告】3 学協会での学協会規格整備計画と標準委員会の対応 (電事連との規格類意見交換会を含む) (SC74-16-9)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC74-16-9 に基づいて、3 学協会での学協会規格整備計画と標準委員会の対応について報告があり了承された。

(14-10) 【報告】標準委員会の出席状況及び投票状況 (SC74-16-10)

事務局から, SC73-3-13 に基づいて標準委員会の出席状況及び投票状況について報告があった。

6 その他(次回日程)

次回は 2018 年 12 月 5 日(水) 午後から

以 上